

# 中学校教員の教科専門性を生かした校区内小学校での授業支援

～児童生徒の連続的な学びによる体力向上と英語力向上の基盤づくり～

桐生市立桜木中学校

## 1 小中連携の取組

桜木中学校は、PTAや学校間の連携を図るため、校区内の桐生市立桜木小学校、桐生市立神明小学校、群馬県立桐生南高等学校と「桜木地区学校連携をすすめる会」（平成14年度発足）を組織し、校長会議、教頭・学社連携担当者会議、授業公開、学校行事参加交流等、様々な連携事業が円滑に行われるよう事務局校として活動している（内容により桐生市立桜木幼稚園も参加）。

本年度（平成27年度）から、この連携をさらに強化・発展させ、小学校から中学校への円滑な接続や体力・学力の向上を図るための取組の一つとして、本校の体力向上特配の保健体育科教員1名及び学力向上特配の英語科教員1名が校区内小学校に出向き、第5・6学年の授業におけるティームティーチング（TT）等の授業支援等を行っている。

## 2 校区内小学校での教科指導のための桜木中学校教員の小学校教諭兼務発令

本校は本年度（平成27年度）から3年間、群馬県教育委員会から「ぐんまの子どもの体力向上事業 体力向上モデル校」指定を受け、校区内の桜木小学校と神明小学校は、桐生市教育委員会から「教育課程特例校（英語科）」指定を受け、平成27年度から取組を始めることとなった。

そのため、中学校教員の教科専門性を生かして小学校の授業支援が行えるようにしたいと考え、本校の体力向上特配の保健体育科教員と学力向上特配の英語科教員の2名について、平成27年度に桜木小学校と神明小学校の兼務発令を受けている。平成26年度から協議を重ね、小学校での教科指導とともに、過重負担とまらない範囲で教科指導に関連する学校行事等の指導に関われるように計画・準備を進め、4月から2名の教員が小学校の授業に携わっている。

### (1) 体力向上特配の保健体育科教員の勤務について

本校の保健体育の授業を行うとともに、群馬県教育委員会の特配定数の活用通知に基づいて神明小学校第6学年の体育の授業におけるTTとして、最大週3時間の授業支援に当たっている。学校間であらかじめ時間割の調整を行い、中学校の火曜日1・2校時、水曜日3・4校時、金曜日5・6校時を、小学校で授業ができるように移動時間も含めて割り当てている。また、桜木小学校には、体力向上・運動意欲向上の取組の一環として、放課後の学習支援に当たっている。授業の打合せについては、授業内や授業後に行うとともに、空き時間にC4thを通して行っている。また、放課後支援の打合せについては、主にC4thを通して行っている。

### (2) 学力向上特配の英語科教員の勤務について

本校の英語の授業を行うとともに、桐生市教育委員会の指導を基に、毎週、桜木小学校に水曜日、神明小学校に木曜日午後に外国語活動の授業支援に当たっている。桜木小学校では、1学期に第5・6学年で、2学期からは第1～第4学年でTTの授業を行い、打合せを勤務日の授業時間割に設定された打合せの時間や放課後に行っている。神明小学校では、第5・6学年でTTの授業を行い、打合せ日を毎週火曜日の放課後に位置付けて実施している。また、夏季休業中には、外国語活動についての校内研修会が開催され、英語教育の授業改善や模擬授業及び授業研究会の講師や指導助言者を務めている。

### 3 授業支援の実際

#### (1) 小学校体育の授業について

単元全体の導入部では、中学校教員がT1として授業を行い、体育の授業の展開の仕方や体育指導の進め方について担任の先生に理解してもらうようにし、その後、T1とT2を入れ替わって授業を行うようにしている。また、単元によっては、技能面の指導でT1として示範や技術指導を中心になって行ったり、能力別編成をして、能力が高い児童に発展的な指導したり、種目の基礎的な部分では苦手な生徒に補充的な指導をしたりしている。担任の先生には、基礎的なことの積み重ねを大切に、スモールステップでの指導を理解してもらい、具体的な指導方法を掴んでもらうよう留意している。



**<保健体育科教員の声>** 4月から、小学校で学級担任の先生と体育の授業をTTで行い、児童が授業を重ねるたびに明るく進んで取り組む姿が見られるようになった。運動の方法を細かく指導することで、児童が前向きに取り組んでくれるのではないかと感じている。子どもたちには、運動が好きになってほしいと思っている。苦手であってもやろうとし、運動を楽しんで少しでもできる子どもになってほしい。小学校6年生の子どもたちの様子や授業の様子を間近に見ることができ、中学校と小学校の違いを感じるとともに、入学してくる子どもの小学校時代の様子が見られて指導の参考になり良かった。

#### (2) 小学校外国語活動の授業について

コミュニケーションの道具としての英語を使うことの楽しさや、人とかかわることの楽しさを味わわせるとともに、英語に対する興味・関心を高め、英語を使ってみたい、英語を話せるようになりたいという思いを育てるように留意して、授業に取り組んでいる。

子どもたちをよく知る学級担任が主導してこそその外国語活動であるため、桜木小学校では、1学期は中学校教員がT1として第5・6学年の授業を行い、2学期以降は学級担任がT1となりALTとの授業を行っている。さらに、2学期には第1～4学年の授業にT1として関わっている。神明小学校では、中学校教員がT1として第5・6学年の授業を行い、2学期以降はT1とT2を入れ替えて授業を行っている。

児童にとって学級担任は憧れの存在と言えるので、自信をもって英語を使えるよう、教材作成等のアドバイスも行い、学級担任から英語学習者のモデルを示せるように働きかけている。



**<英語科教員の声>** 間違ってもいいから言ってみよう、やってみようという気持ちで英語の授業に取り組んでほしいと思っています。その取組の中で、言えるようになった、ALTの先生に通じたといった達成感を味わって、自信につなげてほしいです。4月から見ると、今まで英語を話すことにどちらかという消極的だった児童が、会話活動の時に大きな声で自分から相手に話しかけたり、挙手して発表するようになりました。英語の音の捉えがよくなり聞こえてきた英語を聞こえたとおりに言うことが上手になり、練習回数も少なく済むようになりました。また、英語を書く活動（アルファベットや名前）にも慣れるとともに、私やALTに英語であいさつをしてくれる児童が増えてきました。